

Vision



国際生理科学連合第36回世界大会 (IUPS2009) 組織委員会の活動について

国際生理科学連合第36回世界大会大会長・組織委員長
東京大学医学部生理学教室

宮下保司

国際生理科学連合第36回世界大会（第36回国際生理学会大会）(IUPS2009)が、2009年7月27日から8月1日の5日間、国立京都国際会館において開催されます。日本生理学会はこの大会を、日本における生理科学の研究成果を世界に向けてアピールし、また国内における生理科学研究の活性化・基盤整備のまたとない機会として、日本生理学会会員の皆様とともに大会の開催に向けて積極的に取り組んでまいります。組織委員会はこれまで金子章道委員長のもとに活動してきましたが、金子先生の国際生理学会会長就任に伴い、昨年5月の総会の決定によって、私、宮下保司が組織委員会委員長・大会長をお引き受けすることとなりました。以下にこれまでの組織委員会の活動をご報告し、日本生理学会会員の皆様のご理解と一層のご支援をお願いするとともに、組織委員会活動に対する積極的なご意見・ご提言を頂きたいと存じます。詳しい準備状況、今後の計画、タイムテーブルについては、IUPS2009ホームページ <http://www.iups2009.com> をご覧いただきたく存じます。

国際生理学会世界大会は約50年前に一度日本で開催され、今回が2回目の開催となります。4年に一度開催される生理科学分野のもっとも歴史

のある学術集会であります。第36回大会となる京都大会のメインテーマは「Function of Life: Elements and Integration」であり、生命要素とその統合機構から機能生命科学を考えることを主題としています。組織委員会はこれまで11回の会合を持ち、大会開催の具体的な計画とそれを実行するための組織委員会の整備、予算案作成等に取り組んできました。組織委員会はこの大会が、(1)最先端の研究成果の発表と討論の場として有意義であること、(2)世界中から集まる多数の生理科学研究者の交歓の場として楽しいものであること、(3)日本における生理科学の研究と教育の基盤強化に資すること、をめざし各々の具体的準備を進めてきました。(1)-(3)のそれぞれを、プログラム委員会（倉智嘉久・副会長・担当）、総務委員会（岡田泰伸・副会長・担当）、財務委員会（栗原敏・副会長・担当）が中心に担当し、3人の副会長に分担をお願いしました。また各副会長のもとに、更に具体的な実務を担当する各種委員会を設置し、業務の円滑な遂行と連携を目指し、現在は図1のような組織で活動しています。

プログラム委員会は、学術的水準の高い魅力ある招待講演・シンポジウムを構成するとともに、日本生理学会会員が国際学会の場での発表の機会

を最大限に得ることが出来るよう努力しています。日本生理学会のみならず国内生理科学関連学会からも委員を出していただいて拡大国内プログラム委員会を組織し、第一回会合を2005年12月2日に開催し、各種シンポジウムの枠組み設定や公募シンポジウムテーマの選定に日本の生理科学研究者の意見が反映されるよう努力しています。プログラムは、国際生理学連合の代表と国内プログラム委員会の代表で組織される国際プログラム委員会で作成されますが、この国際プログラム委員会の第1回会合が2006年1月20—21日に大阪で開催され、招待講演者の第一次候補者数名とシンポジウムテーマ候補が選定されました。国際プログラム委員会における決定事項は、IUPS2009ホームページに掲載されていますが、近日中に日本生理学雑誌にも掲載予定です。今後、生理学会会員の皆様からのプログラムに対する積極的なご提案をお待ちします。

総務委員会は、大会開催に関わる実務全般を担当しますが、これまで主に国内国外への広報活動に力を入れてきました。大会ホームページの立ち上げ、英文ファーストサーキュラーの作成・配布（米国神経科学学会等にて）を行ってきました。大会が世界中から集まる多数の生理科学研究者の交流・意見交換の場として楽しく、しかも新しい友人・人脈を得る場として機能することをめざして努力しています。大会開催日が近づくにつれて演題登録・参加登録等、日本生理学会会員の皆様が直接使うヒューマンインターフェイスの作成も本委員会の任務です。出来る限り多数の皆さんに参加していただけるようご意見・ご提案をお待ちします。

財務委員会は、大会予算案を作成するとともに、参加者の登録費収入だけでは賄えない資金調達の具体的方策を検討しています。大会開催に必要な経費をよく検討し、適切な資金計画を立てます。大会開催の趣旨を生かすためには、招待講演者渡航費、アジア諸国などの若手研究者への支援、国際交流のための交歓プログラムなどに対する支出は不可欠です。参加者に満足していただける大会運営のためにインフラを強化するには更に相応の資金が必要です。現在、多数の不確定要素がありますが、自己資金を十分に用意した上で、財団、企業などからの寄附、企業展示、広告、ランチョンセミナーなどへのご協力を仰ぎたいと思います。これまで、日本生理学会会員の皆様には支援資金へのご協力をお願いしてきましたが、まだ、支援資金にお申し込みでない方には是非、お申し込みいただきたくお願い申し上げます。財務募金委員会・栗原委員長から別途ご案内を差し上げますので、一人でも多くの方のご協力をお願いしたいと存じます。

以上、現在までの組織委員会活動の概略を述べましたが、大会の成功のためには日本生理学会会員の皆様が一人でも多く参加していただくことが不可欠です。同時に、会員の皆様が本大会への参加を有意義に利用していただき、皆様の今後の研究教育活動がより一層活性化することを念じております。大会運営を個々の会員の意見に根ざしたものとすることは組織委員会の任務です。組織委員会の今後の活動がどのようにあるべきか、ご意見・ご提案を iups2009@iups2009.com までお送りいただければ幸いです。

